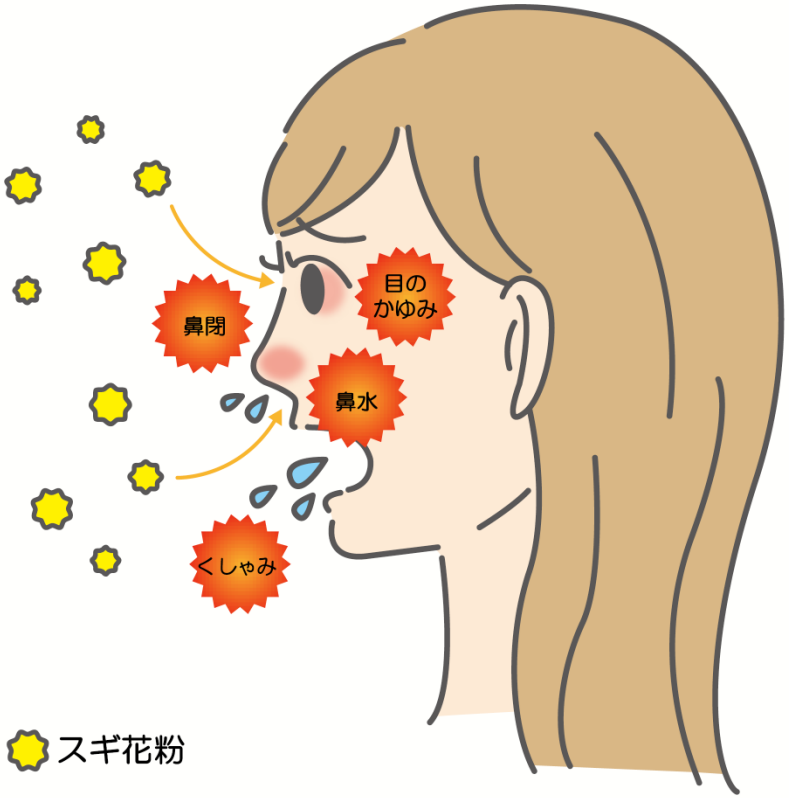
アレルギー性鼻炎に対する
舌下免疫療法について

平成27年4月23日

労災病院　門脇敬一

スギ花粉症とは

花粉症とは、植物の花粉が原因となって、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、
目のかゆみなどのアレルギー症状をおこす病気です。
スギ花粉が原因（アレルゲン）となるものを、スギ花粉症といいます。



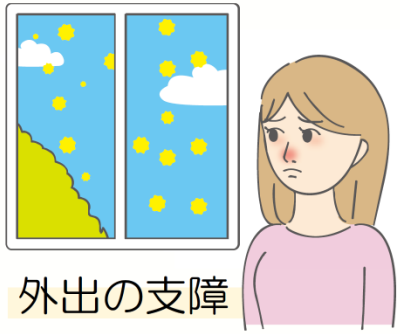
監修：日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野 教授　大久保 公裕 先生

スギ花粉症が及ぼす影響

さらに、スギ花粉症のつらい症状は、日常生活のさまざまな場面で影響を及ぼすことがわかっています※。

いらいら感

思考力の低下



外出の支障

疲労

睡眠障害

※鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会編：鼻アレルギー診療ガイドライン2013

監修：日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野 教授　大久保 公裕 先生

Ⅰ型アレルギー性疾患

アレルギー素因をしばしば持ち

アレルギー既往歴、合併症、家族歴

血清特異的 IgE抗体レベルの上昇

局所肥満細胞

局所と血液の好酸球の増加

粘膜の非特異的過敏性亢進など

アレルギーの診断

症状があること
　くしゃみ、鼻水、鼻づまり

検査
　鼻汁好酸球、皮膚テスト、
　血清特異的 IgE抗体が陽性
　誘発テストが陽性

アレルギー性鼻炎と確定診断

有症者で

鼻汁好酸球検査、

皮膚テスト（or血清特異的 IgE抗体検査）

誘発テスト

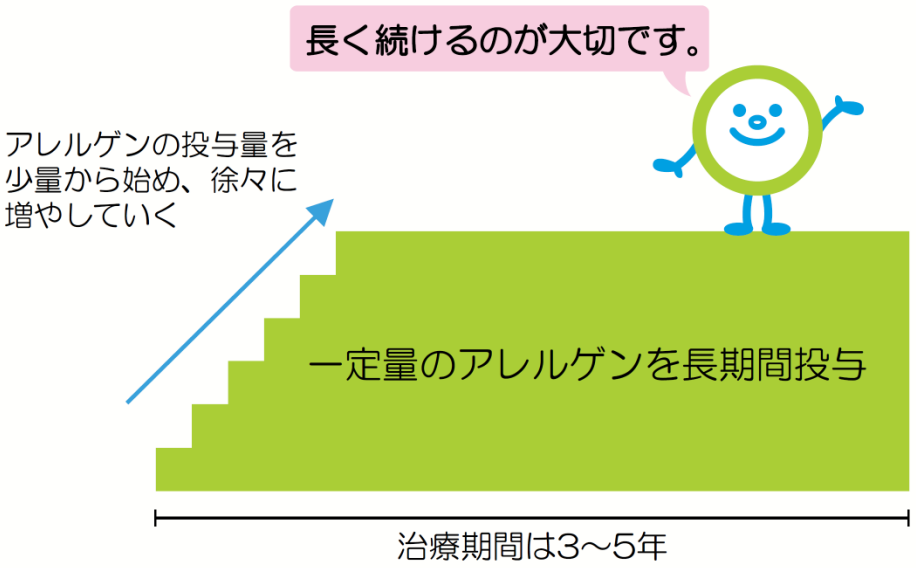
のうち2つ以上陽性なら

アレルゲン免疫療法とは

アレルゲン免疫療法は、アレルギーの原因であるアレルゲンを少量から投与することで、からだをアレルゲンに慣らし、症状を和らげる治療法です。
原因となるアレルゲンを用いて行う治療法のため、原因となるアレルゲンを確定する確定診断が重要です。

- アレルギー症状を治したり、長期にわたり症状をおさえる可能性のある治療法です。

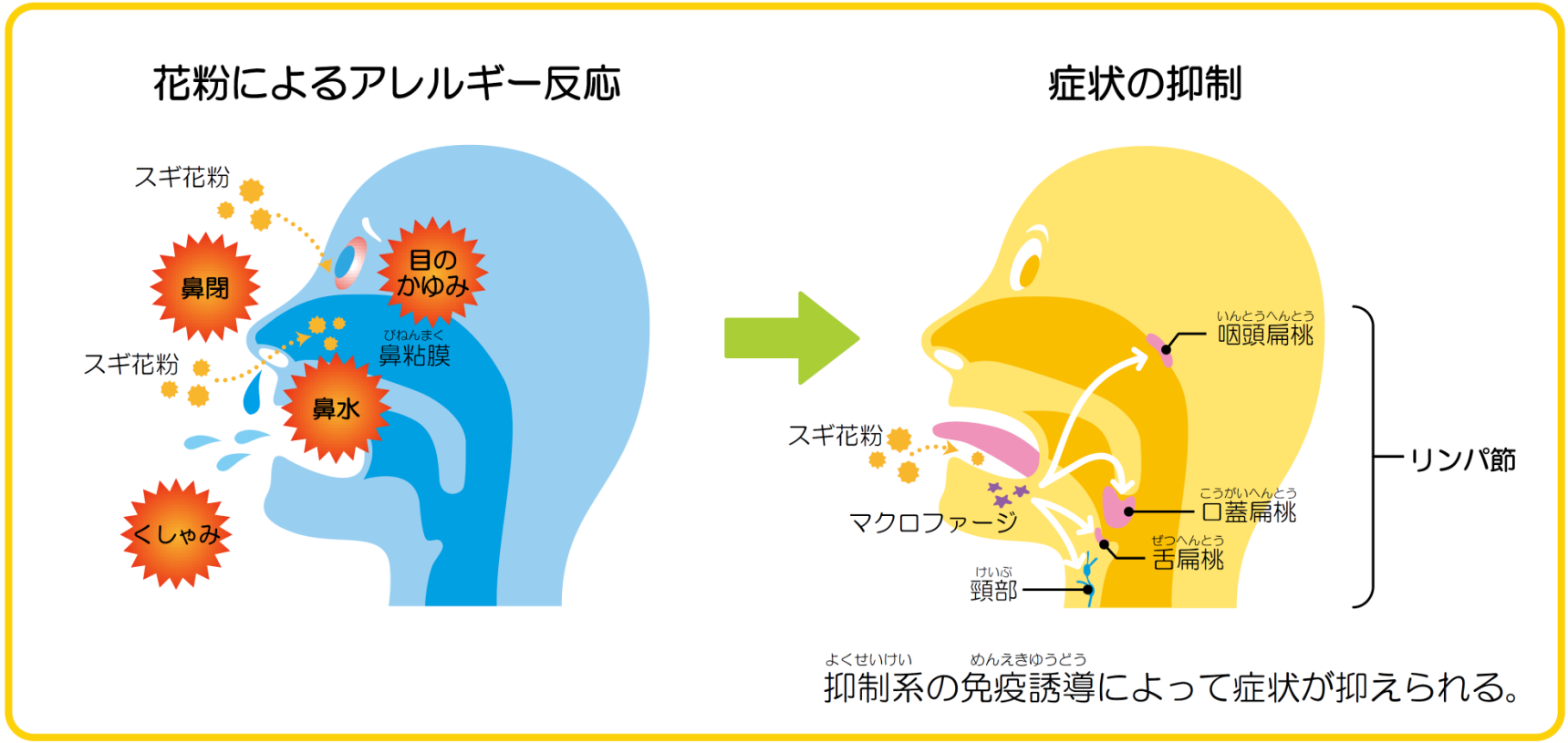
  症状が完全におさえられない場合でも、症状を和らげ、おくすりの使用量を減らすことも期待できます。
- アレルゲンを投与することから、局所や全身のアレルギー反応がおこるおそれがあり、まれに重篤な症状が発現するおそれがあります。
- 治療は長期間（3～5年）かかります。
- すべての患者さんに効果が期待できるわけではありません。



監修：日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野 教授　大久保 公裕 先生

効果を発現するメカニズム

効果を発現するメカニズムは十分には解明されていません。
舌の下から入ったアレルゲン（スギ花粉）が体内で反応し、アレルギー反応を抑制する免疫反応がおこることで症状がおさえられると考えられています。



監修：日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野 教授　大久保 公裕 先生

アレルギー性鼻炎

通年性アレルギー性鼻炎

HD：家のホコリ、

ダニ：

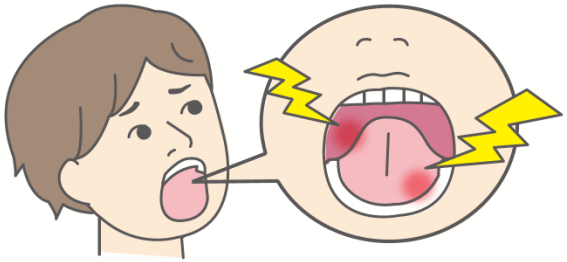
季節性アレルギー性鼻炎

スギ花粉、イネ科の花粉、ヨモギなど

副作用

主な副作用

- 口の中の副作用
  （口内炎や舌の下の腫(は)れ、口の中の腫れなど）
- 咽喉(いんこう)（のど）のかゆみ
- 耳のかゆみ
- 頭痛　　など



重大な副作用

- ショック
- アナフィラキシー※

※アナフィラキシー
医薬品などに対する急性の過敏反応により、医薬品投与後多くの場合30分以内で、蕁麻疹(じんましん)などの皮膚症状や、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状、突然のショック症状（蒼白(そうはく)、意識の混濁(こんだく)など）がみられる

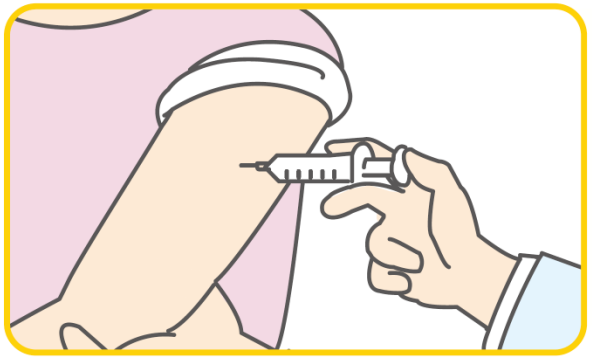
治療に対する正しい
理解が必要です

監修：日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野 教授　大久保 公裕 先生

アレルゲン免疫療法の種類

アレルゲン免疫療法には、「皮下免疫療法」や「舌下免疫療法」などがあります。

皮下免疫療法



舌下免疫療法

皮下免疫療法は、皮下に注射する治療法で、病院で行われます。注射であるため痛みを伴い、さらに治療のはじめは徐々に増量するため頻回に通院が必要となります。

一方、舌下免疫療法は舌下に治療薬を投与するため、皮下免疫療法のような痛みがなく、自宅で服用できます。

しかし、服用量や服用方法、副作用に対する対応など、病院で行う皮下免疫療法と比べてより治療に対する患者さんの理解が必要な治療法です。

監修：日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野 教授　大久保 公裕 先生

舌下免疫療法をご希望の方へ

治療を受ける前の心構え

- スギ花粉が飛散していない時期も含め、長期間の治療を受ける
- 治療薬の服用（舌の下に2分間保持）を毎日継続する
- 少なくとも1ヵ月に1度受診する
- すべての患者さんに効果を示すわけではない
- 効果があって終了した場合でも、その後効果が弱くなる可能性がある
- アナフィラキシーなどの副作用がおこるおそれがある

監修：日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野 教授　大久保 公裕 先生

治療薬の服用方法

治療薬を舌の下に滴下し、2分間保持したあと、飲み込みます。
その後5分間はうがい・飲食を控えます。
スギ花粉が飛んでいない時期も含め、毎日服用します。

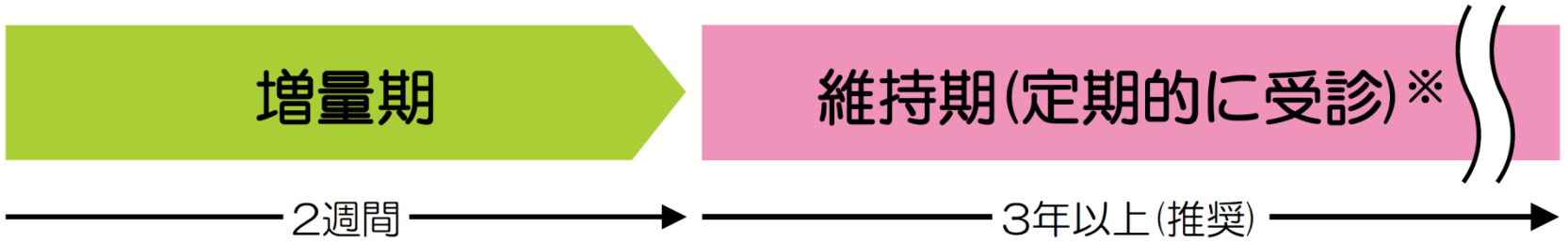
監修：日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野 教授　大久保 公裕 先生

スギ花粉症の舌下免疫療法

スギ花粉症の舌下免疫療法は、スギ花粉症と診断された12歳以上の患者さんが治療を受けることができます。

服用期間

1日1回、少量から服用をはじめ、2週間は徐々に増量し、その後は決まった量を数年にわたり継続して服用します。
初めての服用は、スギ花粉が飛散していない時期に、医師の監督のもと行う必要があります。



※少なくとも１ヵ月に１度、受診が望まれます。

舌下免疫療法：該当となる方

1．12歳以上、65歳を対象

2．特異的IgEが病態に関与している

3．軽症から重症まで

舌下免疫療法の患者さんへの確認

1. 長期間の治療を受ける意志
2. 毎日継続できる
3. 一ヶ月に一回受診可能
4. 全員に効果があるわけではない：理解
5. 終了後、その効果が減弱する：理解
6. 副作用の対処法：理解

該当しない方

1. B阻害剤使用中
2. %FEV1が70%以下、不安定な気管支喘息
3. ステロイド剤の連用、抗ガン剤使用
4. 重症の口腔アレルギー
5. 開始時に妊娠している
6. 急性感染症に罹患
7. 自己免疫疾患の合併や既往
8. 継続的な通院の困難